

学校教育(経営)方針

京都市立明親小学校

1 学校教育目標

まずは一人で そしてみんなで学び合い
やさしさあふれる社会を創り出す子どもの育成

2 目指す子ども像

○ 考える子

- ・主体的に学習に取り組み、基本的な知識や技能を活用しながら問題を解決する。
- ・相手の話をよく聴き、自分の思いや考えを相手にしっかりと伝える。
- ・筋道を立てて考える。

○ やさしい子

- ・思いやりがあり、人やもの、命を大切にする。
- ・自然や美しいものに感動する。
- ・自分たちの住んでいる淀の地域に愛着をもつ。

○ たくましい子

- ・健康で安全な生活を自分で実践しようとする。
- ・明るく元気に挨拶や返事をする。
- ・ねばり強く最後までやり遂げる。

3 目指す学校の姿

○主体的な学びを実現できる学校（子ども一人一人が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考える。）

○やさしさあふれる学校（思いやりやぬくもりが感じられる行動～子どもへの積極的な声かけや来校者への積極的な挨拶）

○美しい学校（整理・整頓され、清掃が行き届いている。）

○信頼関係で結ばれた学校（家庭、地域との連携を深め、それぞれの持つ教育機能を発揮し、共に高め合う。）

4 目指す教職員の姿（4つのH）

○ Heartwork 情感豊かな教職員

- ・人権感覚を磨き、人権尊重や命の尊厳を意識する教職員
- ・子どもの背景にまで思いを巡らせ豊かな心をはぐくむ教職員
- ・一人一人の子どもの良さを見つけ、ほめてしかって認めて伸ばす教職員

○ Headwork 意識改革を自ら推進する教職員

- ・新学習指導要領を意識した教育を行う教職員
- ・カリキュラムマネジメントや働き方の変革を求める教職員
- ・見通しとゴールイメージをもって、教育を進める教職員

○ Healthwork 心身ともに健康な教職員

- ・やりがいを感じ、心身ともに明るく元気な教職員
- ・なんでも話し合い、風通しの良い職場をつくろうとする教職員
- ・すぐにやる、みんなでやる → みんなで汗を流しましょう！

○ Homework 効率的な仕事ぶりを意識する教職員

- ・学校経営に積極的に多面的に参画する教職員
- ・自分の働き方（時間外勤務・持ち帰り仕事の縮減等）を変革する教職員

5 学校教育目標達成のために

(1) 学力向上に向けて

①授業の改善

- 子どもが主体的に学ぶ授業
- 子どもが対話的に学ぶ授業
- 子どもが深い学びを得る授業

- 構造化された授業の構築（めあて～展開～まとめ・振り返り）
- 指導に生かす子どもへの評価の在り方
- 指導に生かす自身への評価の在り方（P D C Aサイクルの明確化）
- 言語活動の充実
- 外国語活動の充実
- 個や能力に応じた指導・支援の徹底
- I C T機器を活用した情報教育の充実
- 校内研究の充実 → 他教科への広がり
- 資料の保管、及び整理・整頓（資料室の整備）

②授業力の向上

- 全員一授業公開（校内研究・分掌部会提案授業を含む 若手道場は除く）
- 他校から学ぶ（研修会も含む）
- 自己研鑽を積む（外部研修会 研究会活動等）

③基礎・基本の学力の定着

- 計算道場、スクールV、朝の帯時間の活用（読書・言葉・計算・漢字などの学習）
- 家庭学習の充実
- 読書活動・活用の充実

④高まりのある学習集団の形成

- 学習ルールの明確化と徹底
- 「学ぶことはあたりまえ」の意識と姿勢
- やはり、子どもは「授業」で育てる

(2) 人権教育の充実にむけて～豊かな人権感覚を育むために～

①同和教育の充実

- 全ての児童の学力の向上を図る。
- すべての児童にあらゆる差別を許さない、人権を大切にした行動ができるように育成し、自立できる子を育てる。
- 家庭訪問や研修を通して、教職員自ら鋭い人権感覚を身につける。
- 同和問題指導・素地指導の充実を図る。
- 保護者啓発の充実を図る。

②心の広場の学習の充実

- 毎月の取組の充実及び掲示板の活用や児童同士の交流を図る。

③総合育成支援教育の充実を図る

- 障がいのある児童の社会的参加・自立を目指して、一人一人の可能性を最大限に伸ばす指導を推進する。
- すべての児童が障がいのある児童との触れ合いを通して、障がいについての理解を深め、互いにふれあい支え合うようにする。
- L D等通級指導教室との連携を深めながら、支援の必要とする子どもへの指導体制の充実を

図るとともに、支援ができる学年、学級作りを進める。

④外国人教育

- 日本人児童の民族的偏見を払拭し、共に生きる国際協調の実践的態度を育てる。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童ひとり一人の自己実現に向け、学力の向上と個性の伸長を図る。
- 外国人児童及び外国にルーツをもつ児童の保護者との連携と信頼関係の構築を図る。

⑤男女平等教育

- 男女がお互いの性差を理解し、共に男女共同参画社会の担い手として尊重・協力しあいながら、社会生活を営むことのできる能力や態度を育てる。

(3) 集団や社会との関わりを大切にしながら、自己を見つめ高められる子の育成に向けて

①コミュニケーション能力の育成に向けて

- 人の話を良く聞き、自分の思いや考えをしっかりと話し、創造的な話し合いができる意識、スキル、力を育てる。(発表はノールックで)
- 道徳や国語科等あらゆる教科領域を通して言語表現力を育てる。
- 書く力を育てる。
- 言語表現力を生かし、広げる場の設定を工夫する。
 - ・児童集会
 - ・仲良し活動（縦割り活動）
 - ・学校行事
 - ・野外活動
 - ・朝読書（日常的に読書に親しむ習慣をつける。）等
- 言語表現力を支え広げる言語環境の整備をする。
 - ・学校図書館の整備、充実
 - ・読書週間の取組等
 - ・読書かばんの購入

②やさしく、たくましく生きる力の育成に向けて

- 学校の教育課題を踏まえて、道徳教育の内容を重点化する。
- 学力向上主任、研究主任、道徳教育推進教師を中心に、道徳教育の計画的な推進を図り、道徳の時間の指導の創意工夫を図る。
 - ・新しい資料
 - ・書く活動や話し合う活動の工夫
 - ・板書や発問の工夫
 - ・記述評価の実施
- 道徳的実践力を培う指導の充実を図る。
 - ・態度を養う　心情を育てる　判断力を培う　意欲を高める
- 地域や家庭との連携を図る。
 - ・地域の人材の発掘
 - ・学校だよりや学年、学級だよりの工夫
 - ・学校ホームページの充実（「学年の部屋」開設）
 - ・授業参観での授業参加
 - ・チーム明親としての開かれた学校体制（学級体制）

(4) 生徒指導の充実

①目指すべき子どもの姿

- 主体的に考え、実行する力（自己指導力）を育てる。
- 自分は人の役に立つ存在であるという意識（自己有用感）を育てる。
- 学校でのきまりや、交通ルールを守り、安全に行動できる態度や能力を育てる。

②指導に関して

- 一人ひとりの子どもが安心して楽しく過ごせ、学習に向かう学級づくりを進める。
- 一人一人の当面の課題、長期的な課題を明確にした生徒指導に努める。
- 学習指導と生徒指導が一体となる授業を構築する。
(誰もが、「今日も学校に来てよかった」「学校が楽しい」と思える学校)
- 子どもの置かれている背景まで目を向け、子どもの声に耳を傾け、子どもの立場に立った児童理解をする。
- 日常観察を積極的に行い、心情や行動を多面的にとらえて、見逃しのない観察、手遅れのない対策をとり、根気強く心の通った指導を行う。
- 有事の際の対応は素早く丁寧に誠意をもって行う。
できる限り家庭訪問を行う。後に回さない。
今、丁寧に時間をかけておくことで、後々の大きな問題につながらない。

(5) 健康教育の充実

- 子どもも教職員も常に安全に対する意識を高く持ち続けることができるよう努める。
- 一人一人の心身の健康状態を的確に把握し、健康な体作りに取り組む。
- 自分の心や体について理解し、生活のリズムを整え、健康作りに取り組む習慣を身に付けるようにする。「立腰」
- 給食を通して栄養やマナーの大切さを理解し、バランスのとれた栄養について理解し、望ましい食生活の習慣を身に付けるようにする。
- 家庭との連携のもと、早寝・早起き・朝ごはんの習慣を図るようにする。
- 怪我、事故の未然防止と指導の徹底を図るようにする。
- 有事の際の対応は素早く丁寧に誠意をもって行う。
できる限り家庭訪問を行う。後に回さない。
今、丁寧に時間をかけておくことで、後々の大きな問題につながらない。

(6) 開かれた学校づくり

- 教育活動の積極的な提示
- 学校運営協議会での熟議や参画による学校運営の充実
- 学校評価の効果的な活用

6 働き方改革の推進

(1) 時間を意識した働き方

- 見通しとゴールイメージをもち、計画性のある働き方
- 責任や自覚をもち、優先順位をつけながらの働き方

(2) 業務の効率化

- 共有フォルダの活用
- ICT 機器を活用した教材の使用

(3) 業務の精選・適正化

- 「つけたい力」や「資質・能力」を明確にし、カリキュラムマネジメントを推進
- P D C A サイクルを生かし、取組の改善を考える。

7 今年度の重点

「学力向上」

キーワードは 「Create（創造性）」

学校教育(経営)方針 構想概略図

京都市立明親小学校

1. 学校教育目標

まずは一人で そしてみんなで学び合い
やさしさあふれる社会を創り出す子どもの育成

3. 目指す学校の姿

- 主体的な学びを実現できる学校
- やさしさあふれる学校
- 美しい学校
- 信頼関係で結ばれた学校

2. 目指す子ども像

- 考える子
- やさしい子
- たくましい子

4. 目指す教職員の姿

- Heartwork 情感豊かな教職員
- Headwork 意識改革を自ら推進する教職員
- Healthwork 心身ともに健康な教職員
- Homework 効率的な仕事ぶりを意識する教職員

5. 学校教育目標達成のために

- (1) 学力向上に向けて
- (2) 人権教育の充実に向けて
- (3) 集団や社会との関わりを大切にしながら、自己を見つめ、高められる子の育成に向けて
- (4) 生徒指導の充実
- (5) 健康教育の充実
- (6) 開かれた学校づくり

6. 働き方改革の推進

7. 今年度の重点 「学力向上」 キーワードは 「Create」

Change

28年度

1. 児童：良いところはさらに伸ばし、変えるべきところは大胆に変革を！

子どもの主体性と社会性の育成のために

- ① 児童を「主体的な学びの集団」に
- ② 規範意識・仲間意識の育成
- ③ 自尊感情の育成
- ④ 教育環境の見直し（安全・利便性）

2. 教職員：自己実現の場である職場を、ゆとりをもって楽しく

・快適に仕事ができる環境に改善する。

- ① 教職員一人一人が自らの思いの実現のために、主体的な学校経営への参画をする。
- ② 必要な（やるべき）ことと不必要なことを精査し、ゆとりを生み出す。
- ③ 常に複数体制で取り組むなど厚みのある教職員組織を構成する。
(生徒指導・保護者対応など)
- ④ 教職員の共通理解を徹底する。（取組・児童理解等）

Challenge

29年度

1. 児童：良いところさらに伸ばし、変えるべきところは大胆に変革を！

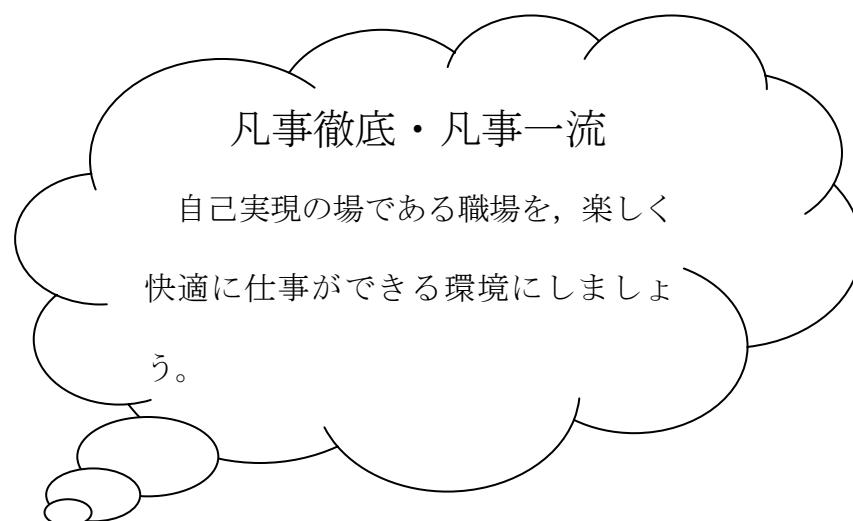
子どもの主体性と社会性の育成のために、

さらに、進化・発展・充実させたい。

- ① 主体的な学びの集団に
- ② 規範意識・仲間意識の育成
- ③ 自尊感情・自己有用感の育成
- ④ 教育環境の見直し（安全性・利便性）

2. 教職員：教職員全員が全児童の担任

- ① 主体的な学校経営への参画（自己の強みを生かす。）
- ② 厚みのある教職員組織（複数体制で取り組む生徒指導・保護者対応）
- ③ 報告・連絡・相談の徹底



Create

30年度

1 児童：将来的に、自分の道を自分で切り拓くことのできるたくましい子ども

- ①高まりのある学習集団の形成（主体的・探究的）
- ②しんどいことにもチャレンジし、壁を乗り越えようとする創造性
- ③考え、実践し、評価する自己指導力
- ④自分は人の役に立っているという自己有用感

2. 教職員：教育のプロであるという意識と誇りをもって、日々、自己の向上を模索・創造する教職員

- ①つけたい力を明確にした授業の創造
- ②主体的・創造的な学校経営への参画
- ③温かく、厚みのある教職員組織の構築
- ④自らの働き方の変革